

事務執行状況点検評価報告書

平成20年度事務事業分

紀美野町教育委員会

はじめに

紀美野町教育委員会では、本町総合計画において、“豊かな教育をめざすまちづくり”に向けて支える柱にし、「学校教育を充実し、次世代を育てる」と「文化・スポーツ活動を通して社会教育を振興する」を掲げ、それぞれ具体的な事務事業に取り組んでいます。

これらの事務事業を推進するに当たり、随時点検評価を行い、その結果に関し、報告書を作成しました。

点検評価事務の実施は今回初回であり、その実施に関して時間を費やすことになりましたが、平成20年度に実施した事業について次のとおり点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

平成22年2月

紀美野町教育委員会

点検・評価等について

・実施根拠

点検・評価の実施については、教育委員会の責任の明確化や体制の充実等を図るべく、紀美野町教育委員会評価等実施要綱に基づき実施しました。

・評価等の対象

評価の対象は総合計画に基づいて、前年度に実施した事業のうち主なものを対象にしました。

・点検、評価の方法

評価等に際しては、担当職員が自己評価として作成した、事務事業評価調書を教育長が取りまとめて教育委員会に提出しました。事務事業評価書は事業コストを確認し、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、それぞれの項目別に4段階評価する「4：十分に出来ている」「3：できている」「2：あまりできていない」「1：できていない」としました。評価の今後の方向性として「廃止・終了」「休止」「継続」「拡大」「見直し」の5つの方向性で示しました。評価の客観性を確保するため、教育委員会評価委員会を設け、外部の立場から評価方法や観点などについてご意見ご助言を頂きました。

弓庭 武彦

評価委員の委員氏名

松本 守信

堀 有子

．評価等の結果

教育委員会の自己評価の結果は、次のとおりです。

(1) 評価の判定別事務事業数

評 価	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
事業数	5	23		

(2) 今後の方向性別事務事業数

方 向	廃止・終了	休 止	継 続	拡 大	見直し
事業数			28		

．まとめ

今後の事務事業について、事務事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務事業の遂行に当たる必要がある。また、財政改革により厳しい財政運営を強いられる中、実行している事業の優先度や緊急度等を勘案し、計画的、重点的な事業実施に努める必要がある。

点検評価結果

学校教育

1. 教育委員会活動事業

教育委員は5名の委員で構成され、性別では男性4名、女性1名となっている。女性1名が任期満了で新たに女性1名が任命された。活動については、会議・儀式・研修会も積極的に参加、委員会は定例会以外に必要なに応じて臨時会を開催するなど学校教育並びに社会教育に関する重要事項について協議審議した。

総 合 評 価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	教育行政についての情報公開が不足している。今後は町広報やホームページなどを利用して発信する必要がある。

2. 教育委員会事務局

事務局が総務学事課・生涯学習課の2課で構成され、状況に応じて、課に拘束することなく職員や臨時職員をもって対応している。特別な支援を必要とする子どものサポートや、学校統合による6台のスクールバスの運行管理、林業への関心や環境への意識を高めるための元気な森の子事業、児童生徒の心に響く道徳教育推進、大成高校教育推進補助金など教育委員会内の庶務的な事務を行った。

総 合 評 価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	厳しい財政状況は教育分野にも大きな影響を与えており、事務事業の執行に際してもコスト削減に努めていくことが必要である。

3. 教育指導事務事業

長期的及び短期的な課題解決に向けて、重点的な対応をすすめるために学校教育方針を策定し、各学校の取り組みに対して、指導主事を中心として指導助言を行う。また、各学校の教育課程を検証し、適正な実施を図る。

総 合 評 価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	各学校に2、3人の学校評価員を置いてあり、地域や家庭と学校の連携について校長に意見を述べることができ、教育課程実施状況をより地域に発信し、地域人材の活用を勧めていくことが求められる。

4. 教育振興事業

特色ある学校づくりを目指し教育推進事業、夢づくり事業(学力・体力・判断力UP事業)を核として、事業を適正かつ効果的に実施できるよう指導助言を行った。また、学校の課題に即した国等の指定研究事業に対しては、研究充実並びに地域への成果普及を図るために、県教育委員会と連携を取りながら指導助言を行った。

総 合 評 価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	各学校の特色ある学校づくりがすすんでいる。より実質的な効果を吟味・検証した上で継続的に向けて推進を図る。

5. 学校施設管理事業

学校施設に関して校舎、体育館等の修繕を行ったほか、長谷毛原中学校の耐震調査及び耐震補強を行った。学校用地の継続借用契約、学校樹木の伐採、雨漏り修繕等を行った。

総合評価	実施状況に対する評価	十分できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	借地・休校・廃校の跡地利用等土地の買収及び有効利用計画をたてる。

6. 外国青年招致事業

ALT(外国語指導助手)2名の体制で町内小中学校を計画的に巡回し、日本人教師を補助して、中学校では英語の授業に、また小学校では総合的な学習の時間にコミュニケーション能力を高め外国への理解を深める機会を与えた。

総合評価	実施状況に対する評価	十分できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	今後小学校の授業が多くなる。 派遣されるALTの人材を当方にて、選考することはできないが、生きた英会話に触れる機会を得ている。

7. 小中学校運営管理事業

学校の管理運営するに必要な校務員の配置、施設の点検管理をはじめ教材等の調達、備品等の修繕、学校医等を委嘱し、児童や教職員の健康管理のため健康診断などを実施した。野上中学校駅伝全国大会出場クラブ助成を行った。

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	生徒数減少による、複式学級等への対応。消耗品や教材、備品の購入など優先順位が求められる。

8. 教育研究事業

町現職教育(教科及び領域)組織の充実を推進し、各教員の指導力向上を図る。また、(県)指導方法工夫改善研究指定事業、学校教育支援員配置事業を積極的に活用し、児童生徒の個に応じた学力保障を図る。

総合評価	実施状況に対する評価	十分できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	町補助事業による活性化をすすめてきているが、予算の範囲内でより成果を出すためには、さらに研究推進の重点化を図る必要がある。また、少子化による学級数及び学級内児童生徒数の減少に伴い、加配教員の配置対象外となる学校が増えている。学校教育支援配置事業の効果的な活用をさらに検証し、個に応じた指導の改善をすすめる必要がある。

9. 学校教育扶助事業

要保護、準要保護児童生徒への就学援助や特別支援教育就学援助を行った。

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	基準設定の見直し検討が必要(書類審査のみの承認でよいのか状況調査等が必要ではないのか)。

10. 青少年教育活動事業

青少年育成町民会議での子ども祭り・町民一斉清掃・夏の子どもを守る運動・社会を明るくする運動・春秋のふれあいハイキング、見守り隊、早朝の声かけ運動、非行防止啓発等の活動を行っている。

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	少子化等による参加人数の減少等今後の開催検討が必要である 下校時の見守り活動を推進したい。

生涯学習

1. 社会教育事業

時代の変革に対応した生涯学習の成果をあげるため、具体的にできることからはじめ、町づくりは人づくりという理念を基に、「紀美野町生涯学習振興計画」を作成し社会教育委員会(10名)の意見をいただき、それに基づき、常に現状に即応した具体的な実施計画を立て、社会教育指導員と共に企画運営に努めた。社会教育委員の研修会・講習会への積極的な参加に努めた。

平成18年度に紀美野町民歌、紀美野音頭が作成されていることから「紀美野ふれあいマラソン」、「きみの夏まつり」等において活用に努めた。

町内単位PTA及び保護者会が協力して、町内の園児、児童、生徒の連携と安全及び健全な育成を願い町PTA連合会において活発に活動を行っている。

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	今後、社会教育委員の意見をいただきながら、住民のニーズにあった学習機会の充実を進めて行かなければならない。 紀美野町民歌、紀美野音頭を幅広く用いて町民に馴染んでもらえるよう積極的に活用して行きたい。

2. 生涯学習振興事業

平成20年度の社会教育登録団体は、公民館講座(3)、サークル(46)、地域活動グループ(72)と文化協会加入団体(29)があり、それぞれの分野で熱心に活動している。

第3回紀美野町文化祭

3日間(11月1・2・3日)に亘って開催し、中央公民館では一般作品の展示、茶席、文化センターでは児童生徒の作品展示、読み聞かせを実施、また、文化センターホールで、児童生徒の発表会、一般の芸能発表会を開催し、多種多様な演目が披露された。また、「紀美野町学びの月間」の行事として、町民大学講座を開催し、約400名が受講した。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	合併に伴い1箇所での展示・発表は困難なため中央公民館・文化センターの2箇所で実施している。住民に会場の周知がされてきているため、それぞれ大盛況である。	

文化協会

29 団体(会員数349人)が加入し、春の文化協会展、ふれあいステージの開催、県外研修を実施するなど、文化性の高い町づくりに貢献した。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	協会員自ら展示やステージの準備・片付けを率先してやるのが義務化しているため、各人が積極的に活動している。今後、加入団体員の高齢化対策として、若年層の加入を推進しなければならない。	

町民大学講座

本年度は年間3回実施、ピーター・フランク氏(人権)、小池百合子氏(環境)、辛坊治郎氏(報道)を講師に招き、様々なジャンルの講演会を開催した。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	住民の知識と文化の向上に向け、専門知識を備えた著名人を講師に招き講演会を毎年実施して好評を得ている。	

3. 公民館運営・管理事業

公民館活動

中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館の3公民館が、町民の生涯学習活動の実践をはじめ、文化活動の拠点としてその機能を発揮している。学習内容の多様化に伴い、公民館活動が盛んになり、年々サークル数が増え、夜間は部屋数が不足している現況であるが、学習の場、交流の場を提供している。また公民館から遠隔地域で活動しているグループに対して「地域活動グループ(17 団体)」に支援を行なった。

	中央公民館	小川地区館	志賀野地区館
サークル数	45	16	11
登録者数	490	170	83

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	講座・サークル活動の場として公民館が大いに活用されている。今後、新しい講座やサークルへの育成と生き甲斐を見出せる場づくりまた、団体、サークルの相互交流が必要となってくる。また中央公民館に活動の場が集中しているため地区館の育成が今後必要と思われる。	

4. 人権教育事業

人権尊重の精神に徹し、身近な生活における人権に対する感性を磨き、人権意識の高い町づくりのため関係の各行政機関、各種団体が連携した「紀美野町人権委員会」が中心となり各区会と協力し、地区懇談会など地域での啓発に努めた。

また、人権教育、啓発を総合的に理解し、各々のセクションでも主体的に発揮できるよう、議会議員、役場関係職員に研修を行った。

啓発冊子「きみの気づき 3」や人権パンフレットを利用し、保育所、小中学校、各種会議、地区懇談会等の際に配布し、研修資料とした。

平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月の主な活動は下記のとおりである。

* 地区別学習会(26 会場 1,307 名) * 職域研修(1回 132 名)

* 小学校保護者研修(14 回 740 名) * 地区別学習会以外のへの啓発、参加等(12 回)

以上の実践をとおして、町民全体の人権意識が徐々に高まり、町内各地域の自主的、主体的人権啓発活動が行われるようになってきたことは具体的な成果として評価できる。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	仕事や家事で学習会や研修会に参加できない対象者への啓発、企業・事業所の自主的人権教育・啓発のあり方を考究する。	

5. 放課後子ども教室推進事業

中央公民館と文化センターに「ふれあいルーム」を設置している。絵本の読み聞かせ、工作、スポーツなどプログラムを決めて、学習活動を行い、放課後の子どもの居場所として確立された。

また、中央公民館、自然体験世代交流センターを拠点として 4 泊 5 日の通学合宿を開催し、計 34 名の児童が参加した。児童たちは集団生活を通し、周りとの協力することや、家族に感謝することについて学び、地域のボランティアとの交流も深めることができた。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	安全管理員や学習指導ボランティアなど地域の人材の確保。	

6. みさと天文台事業

天文台では、星を学習するという側面の活動だけでなく、紀美野町の財産のひとつである美しい星空を楽しみ、心豊かな生活につなげられるよう、子どもから大人までを対象にした幅の広い活動を続けている。

夜間の星空観察会だけでなく、日中でもイベントを定期的に行っており、天文教室等では、その時々のおトピックスを取り上げる講演形式など、様々なアプローチで星空や自然に触れるイベントを行い、多くの方が参加して好評を得ている。様々な天文現象の折には臨時に観察会を開催し、その時にしか見ることのできない現象を一人でも多くの方に提供できる機会を設けた。

町民に、少しでも星に触れてもらう機会を増やすため、文化祭などで出張観望会や町民大学講座の前座として星に関わる講演、青少年センターのイベントにおいては、子ども達をターゲットにした星空観察会を行った。

和歌山大学や和歌山県教育センターとの連携活動も様々な形で行っている。また、和歌山放送で星のお話をするコーナーを担当するなど、マスコミを通じて多くの方に星空に親しむ機会も作ってきているところである。

天文台主導の活動だけでなく、友の会や星空サークルなど町民主導の活動も年々活発化してきており、友の会やサークル活動も増えてきている。今後、さらに、天文台をきっかけとした地域ぐるみの活動が期待される。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	和歌山大学及び国立天文台との連携により情報交換が積極的に行われている。今後もより一層、積極的な情報交換や活動を行いアピールしなければならない。	

7. セミナーハウス未来塾事業

自然豊かな箇所に位置し、みさと天文台に遊歩道を利用して訪れることができるため、研修施設として町内外から利用されているところである。

この度、利用ニーズに合った開館日、開館時間の拡大やサービス内容の充実等、民間事業者ならではのアイデアで運営が可能となることから、指定管理者制度の導入に向けて取り組んでいる。

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	指定管理者の運営に期待する。	

8. 文化センター事業

みさとホールは客席数は2階部分を合わせて504席、ドイツのスタンウェイ製のグランドピアノを備えて、平成10年7月に開館してから身近な専門的ホールとして住民に親しまれている。

文化振興事業

NHK 公開録音「名曲リサイタル」、ピリーバンバンコンサート、ミュージカル、アニメ映画上映会

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	実施する文化振興事業が住民のニーズにどこまで応えられるか、専門性の高いホールの有効活用。	

9. 保健体育事業

少子高齢化に加え人口の減少による過疎化現象等、課題の多い時代にスポーツを通して誰でも気軽に地域のコミュニティづくりの原動力になれると捉え、子どもから高齢者にいたる多世代が様々なスポーツに親しみ、健康づくり、体力づくり、そして世代間の交流が活発に図られることを念頭に置いて、野上スポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)の活動として交流イベント及びスポーツ教室(15団体)を開催した。

また、生涯スポーツとして推進しているゲートゴルフ・パークゴルフ大会、町民の健康増進とジュニア層の体力・競技力の向上のため紀美野ふれあいマラソン大会、市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への取り組み、そしてスポーツ少年団(11団体)の各種事業へのサポート等を行った。

ゲートゴルフ大会

* 全国大会(10月、参加者:60名) * 県大会2回開催、(5月・11月、参加者合計:369名)

* チャンピオン大会(3月、参加者:73名)

総合評価	実施状況に対する評価		十分できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	ゲートゴルフ発祥地としての啓発活動と後継者の育成。	

パークゴルフ大会

*春大会(6月、参加者:87名) *夏大会(7月、参加者:123名)

*秋大会(11月、参加者:118名) *チャンピオン大会(3月、参加者:96名)

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	和歌山県パークゴルフ協会連合会(仮称)の設立に向けた取り組みと後継者の育成及び活動の拡充対策。	

第3回紀美野ふれあいマラソン大会(12月参加者:1,215名 支援ボランティア:250名)

アップダウンに富んだロードレースのクォーターマラソンとパークゴルフ場の芝生の上を走るクロスカンントリーレース、また誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、子どもから高齢者まで幅広く参加することができるため町内はもちろんのこと町外、県外からも多くのエントリーがあり紀美野町を対外的にPRすることができた。

種目別参加者数

種目	1,500m	2,000m	3,000m	クォーター	ウォーキング
参加数	287人	270人	256人	345人	57人

地域別参加者数

住所地	町内	和歌山市 海南市	紀の川市 岩出市	その他県 内市町村	関東	中部	近畿	九州
参加数	391	354	172	127	3	3	164	1

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	多くの選手の参加やボランティアの協力により運営が成り立っている。またボランティア意識の高揚と紀美野町のPR及び町外・県外の方々との交流を図ることができた。	

スポーツ少年団活動

[野球、バレーボール、剣道、サッカー、新体操、空手、少林寺拳法、バドミントン]

総合評価	実施状況に対する評価		できている
	今後の方向性		継続
	今後の課題等	児童の減少による新入団員の確保	

第8回市町村対抗ジュニア駅伝競争大会出場(2月)5位入賞
町内小・中学生の選抜で8月から練習を開始、3回の試走を行い2チームが出場した。

総合評価	実施状況に対する評価	十分できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	対象児童・生徒数が減少する中で出場選手の確保

第3回紀美野町スポーツ・レクリエーション大会(10月)開催
ゲートゴルフ(参加者:86名)・ソフトバレーボール(参加者:77名)

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	今後、住民のニーズに合ったスポーツ種目を増やして色々な人が参加できるように取り組んでいきたい。

10. 体育施設管理運営事業

生涯スポーツ振興のため、施設の充実と安全な運営に心がけ、各施設の維持管理に努めた。体育施設使用団体は、より充実したスポーツ活動を行った。

若者広場リニューアル事業は平成19年度・平成20年度の2ヵ年に渡り、改修を行った。平成19年度は多目的人工芝グラウンドと県道からの進入路の工事を行い、平成20年度は多目的運動広場と遊歩道が完成。平成21年3月7日に紀美野町スポーツ公園として竣工式を挙行了した。

総合評価	実施状況に対する評価	できている
	今後の方向性	継続
	今後の課題等	施設の有効活用とホッケー競技の啓発と推進。

・評価委員会の意見

初めての点検・評価ということであり、事業の内容も多岐にわたっていて、評価することの難しさがあった。教育委員会が効果的な教育行政の推進に資するため、事務事業の点検と評価を実施されるに至ったことを評価しますが、より効果を計る上では、事業ごとの具体的な観点を設定して評価する等、工夫研究してもらいたい。以下今後より積極的な取り組みを求めたい事務事業を列記する。

文化財の調査研究[指定基準(保護保全も含め)の確立]と保護活動の促進。

幼児期の教育から小学校の教育へスムーズに適應できるよう、保育所と小学校がお互いに情報を交流し相互理解を図るなど連携を深めることが必要である。連携を推進することにより、それぞれにおける保育・教育の充実も期待され、さらに小学校・中学校へと連携の強化を進めて頂きたい。教育委員さんによる学校訪問が実施されているが、就学前の重要な教育を担う保育所への訪問も、関係部局と連携の上検討して頂いただければと思う。

児童生徒の登校時、見守り活動や声かけ活動が行われている。運動のさらなる広がりを目指すとともに、下校時の見守り活動についても取り組む必要がある。

ホームページや広報等を利用し、教育行政のさらなる情報発信をしていただき、私たちも積極的に教育行政に関心をもって理解を深めたいと思う。

各研究事業は、継続的に行うこと。

今後の方向性では、学習指導要領の改正で「生きる力」をはぐくむという理念を実現するための教育が実施される。

事務事業は長期総合計画の柱に従い、青少年健全育成、芸術文化の振興にも取り組んでいる。

成果を計る上では、事業ごとに具体的な観点を設定して評価すればわかりやすい。

総合評価

- ・“豊かな教育をめざす町づくり”に向け、生涯教育の推進、学校教育の充実、青少年の健全育成、芸術文化・スポーツの振興などの重要施策に積極的に取り組まれ着実な成果をあげている。
- ・学校教育においては、教育委員会、各学校の連携のもと、確かな学力の育成・豊かな心の育成・体力の向上等、児童生徒の確かな成長を育む研究が積極的にしかも継続的に取り組まれている。
- ・生涯学習については、文化面・スポーツ面等多彩な事業が展開され、町民大学講座・文化振興事業・紀美野町ふれあいマラソン・公民館活動等に住民が意欲的に参加し、心身をリフレッシュし健康の増進を図っている。人生を豊かにする生涯学習が推進されている。